

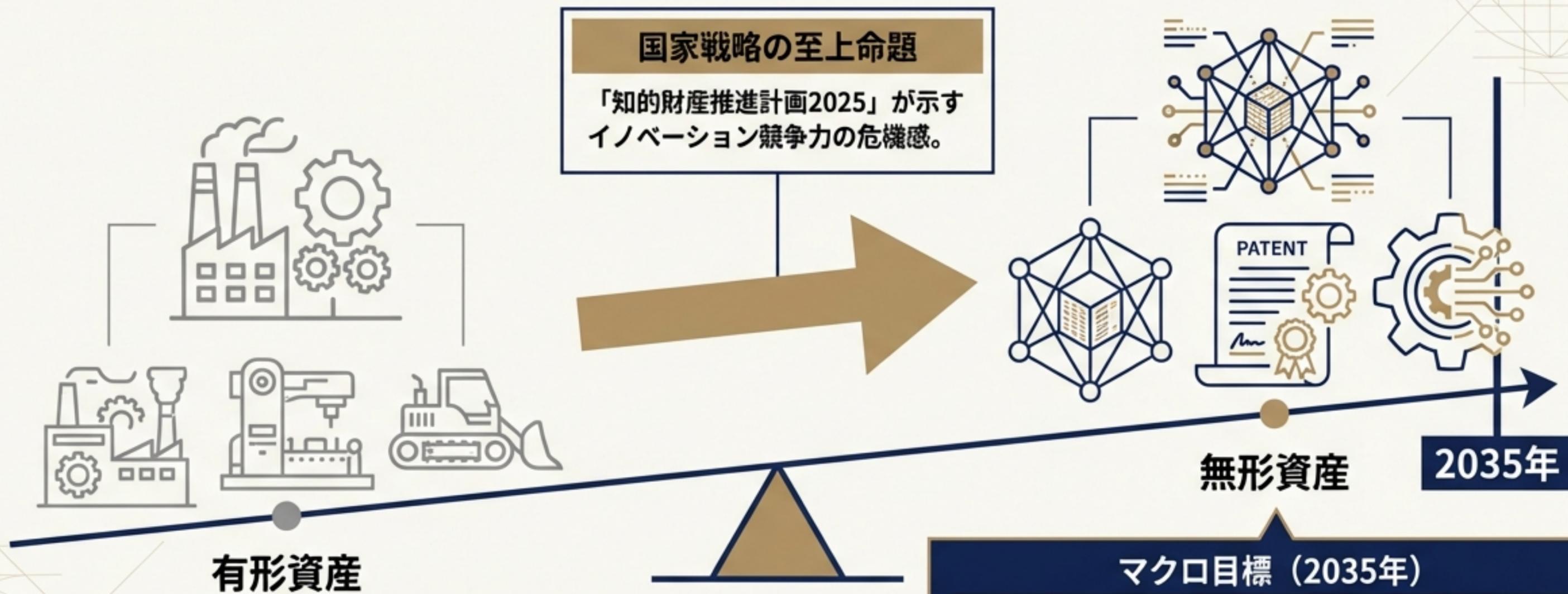


知財パラダイムの変 革と「判断の資産化」

次世代知財人材育成における暗黙知の構造化と、企業競争力の源泉となるAIエージェントの戦略的統合。

リーガルテック社「Tokkyo.Ai」新機能の
深層分析とマクロ知財戦略の軌道一致

IPトランスフォーメーション (IPX) の波：有形資産から無形資産への完全シフト



無形資産の戦略的創出と活用は、単なる企業目標を超え、国家レベルでの至上命題となっている。

知財部門の構造的課題：属人化の罫と組織的記憶の喪失



特殊な配置構造とOJTの限界

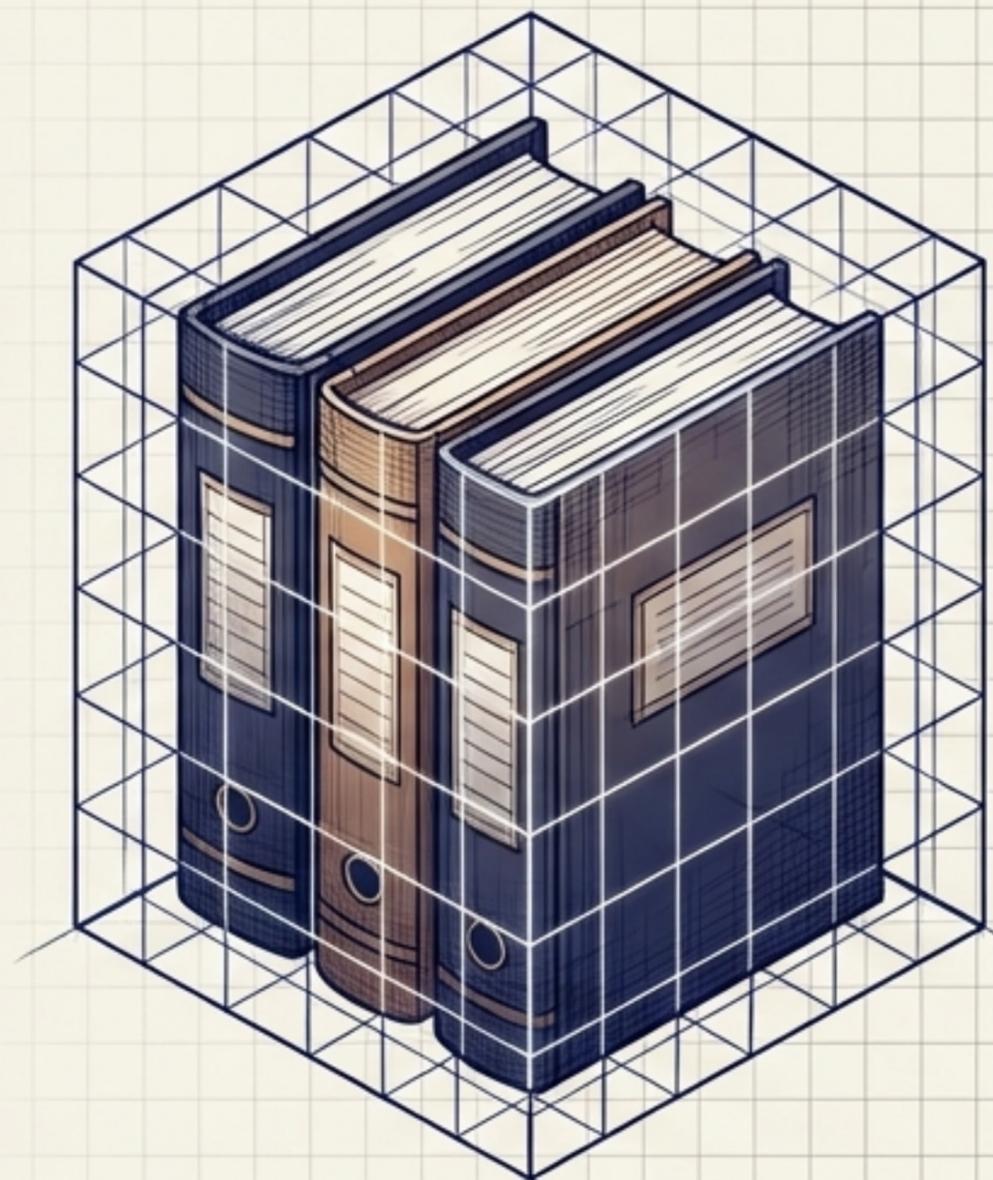
⚠ 専門性が高く、暗黙知（ベテランの経験と勘）への過度な依存。「背中を見て学ぶ徒弟制度」からの脱却不可。

組織的記憶の喪失 (Knowledge Loss)

⚠ 退職や異動に伴い、高度なノウハウや判断基準が組織から完全に失われる経営リスク。

機会損失の連鎖

⚠ 発明の爆発的増加に対し、判断の遅れが「致命的な出願の遅れ（先願主義での劣後）」に直結。



パラダイムの移行：手続管理から「判断プロセスの資産化」へ

Before: 手続管理

ブラックボックス化された結果の蓄積（文献データ、出願ステータス）。

知財管理パラダイムの移行：手続管理から判断プロセスの資産化へ

比較項目	既存の一般的な知財管理システム	Tokkyo.AIの育成支援AI機能
主な目的	<ul style="list-style-type: none">手続管理、期間管理文献検索、権利の管理	<ul style="list-style-type: none">✓ 知財人材の育成支援✓ 判断プロセスの継承
管理対象	<ul style="list-style-type: none">文献データ、公報情報出願ステータス	<ul style="list-style-type: none">✓ 思考プロセス✓ 判断基準、技術評価のロジック
依存度	<ul style="list-style-type: none">担当者経験やノウハウに依存（個人的）	<ul style="list-style-type: none">✓ 組織として共有・継承可能なプロセス（組織的）
付加価値	<ul style="list-style-type: none">事務作業の効率化権利の透明性	<ul style="list-style-type: none">✓ 知財判断力の底上げ✓ 教育コストの削減
AIの役割	<ul style="list-style-type: none">検索の補助自動分類	<ul style="list-style-type: none">✓ ベテランの判断可視化✓ 若手の学習支援

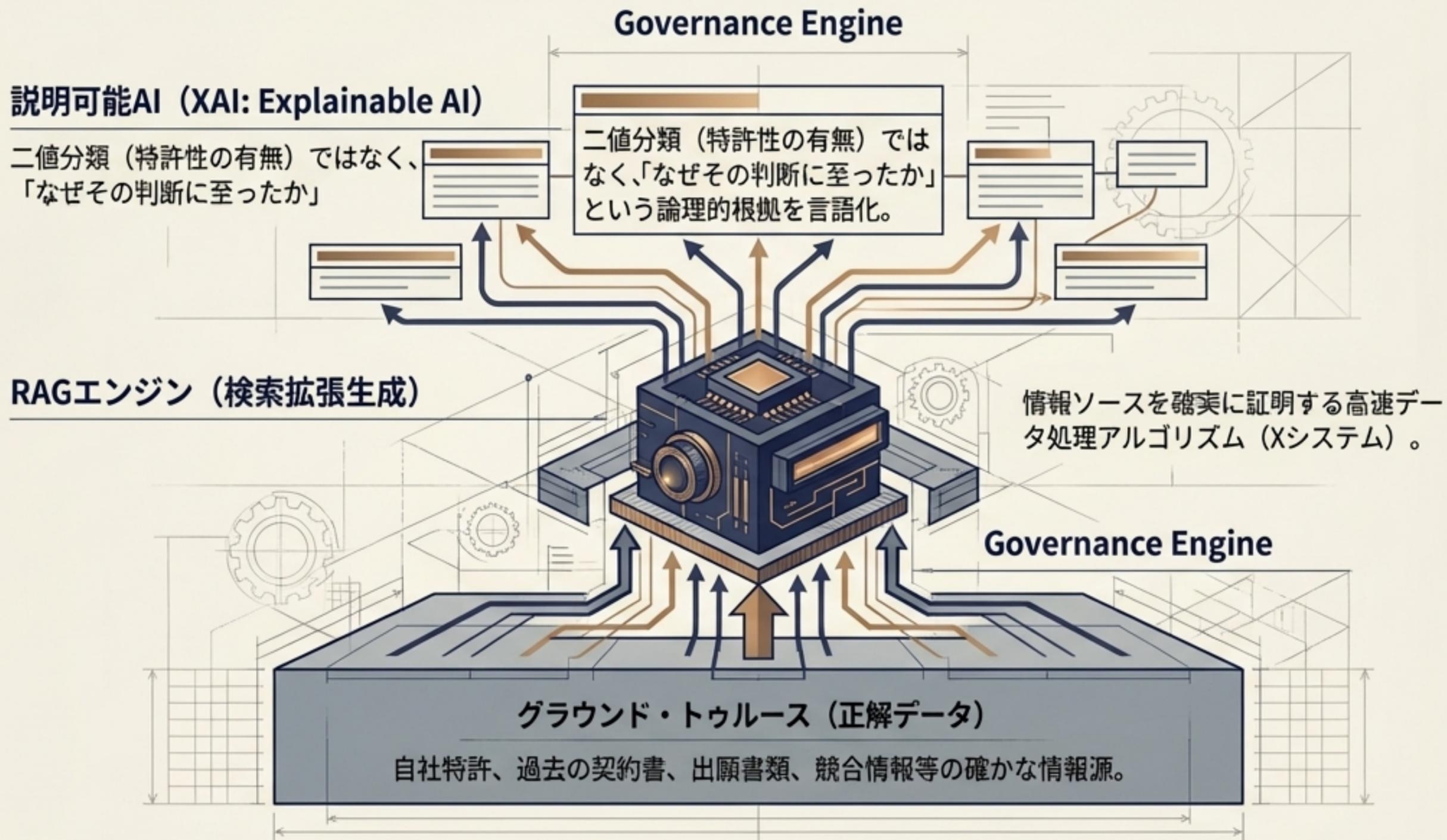
After: 判断プロセスの資産化

「Tokkyo.AI」育成支援AIによる人間の知的作業軌跡のシステム固定化。

ブラックボックスの解剖図：ベテランの「暗黙知」を構造化する3つのステップ



ガバナンスAIのメカニズム：ハルシネーションの排除と「なぜ」の提示

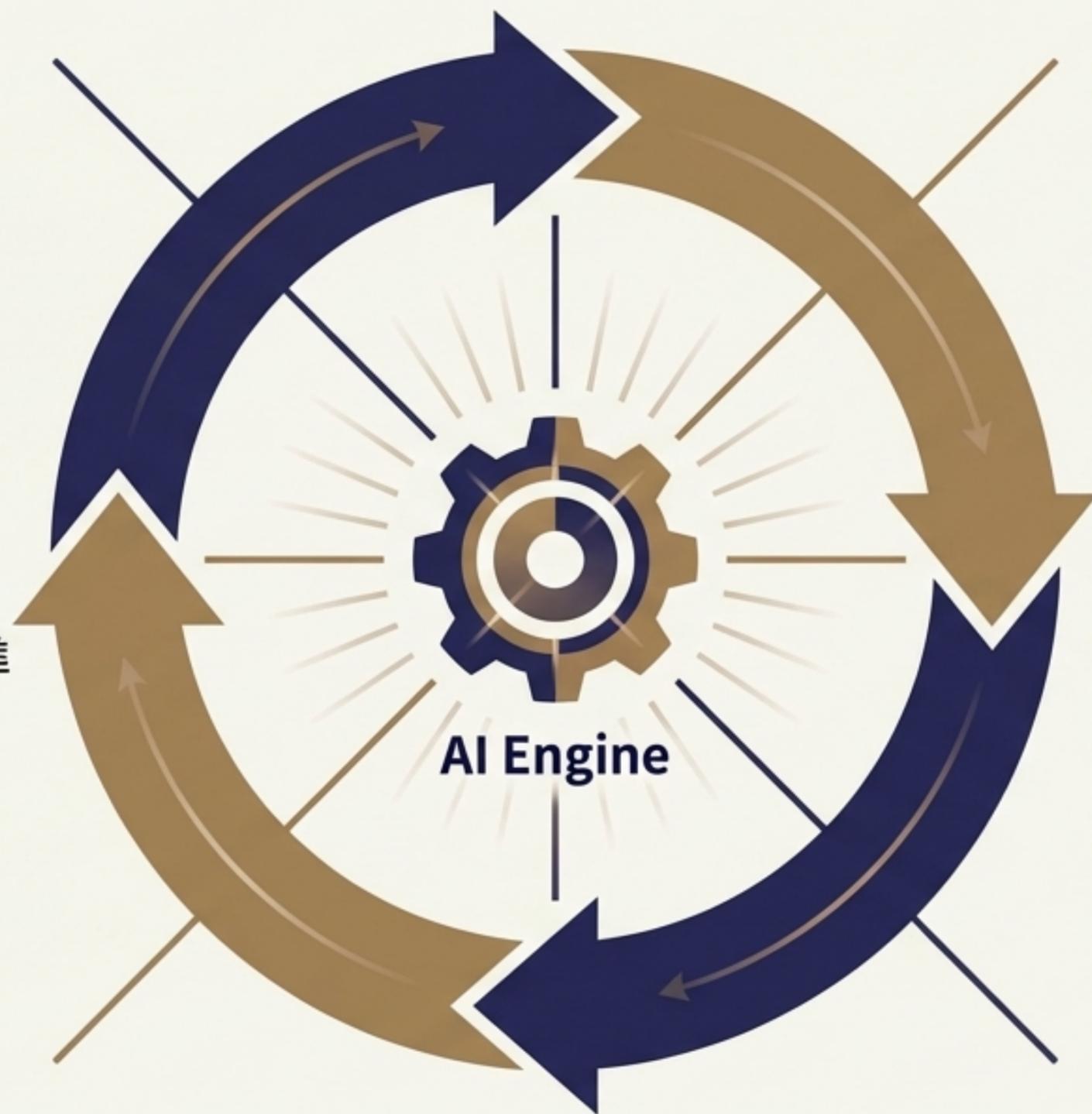


単なる判定ツールではなく、若手が論理的根拠をなぞり、ベテランの思考を「擬似追体験」できる教育的価値を創出。

知識創造の加速：AIが回す超高速なナレッジマネジメント・サイクル

内面化

若手担当者がAIの提示する「思考の軌跡」をなぞり、属人的な経験を「組織で標準化された再現可能なプロセス」として学習。



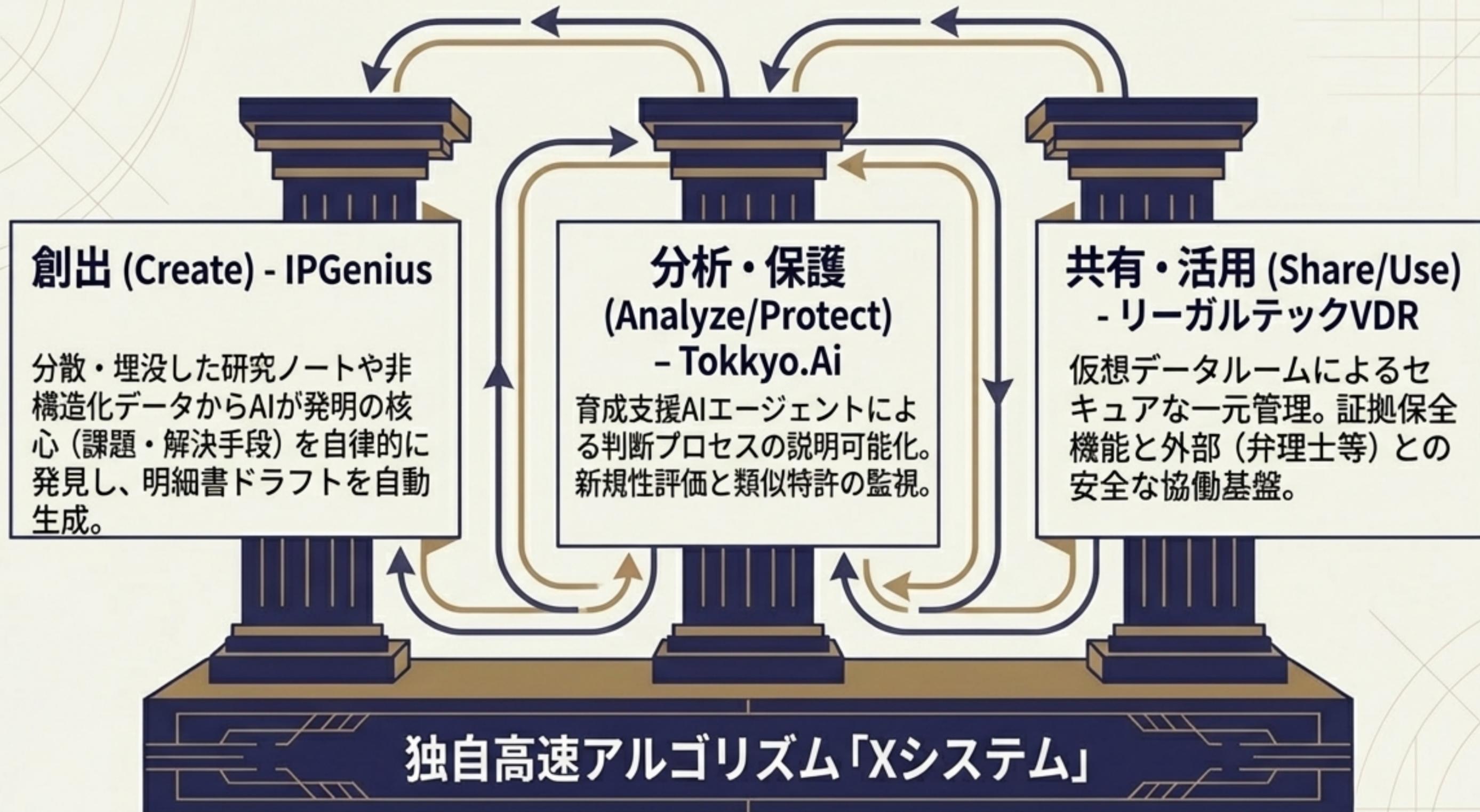
共同化・表出化

ベテランの無意識の判断ロジックをAIが自動で言語化・抽出。

連結化

抽出されたロジックを既存の社内データ（DWPI等の専門特許データ）と照合し体系化。

三位一体のエコシステム：無形資産プラットフォームの循環モデル



非構造化データの「知産化」：特定業界ドメインへの拡張ユースケース



公的研究機関（医療・生命科学）

「AI IPGenius on IDX」を活用し、過去の膨大な成果報告書・委員会資料を横断解析。政策検討の論点整理に適用。



建設業界（ゼネコン）

長期の大型インフラ案件における会議議事録や設計変更記録を解析し、次期プロジェクトの施工計画へ還元するナレッジ管理。



大学・TLO（技術移転機関）

論文草稿や実験報告書から特許性の高い記述を自動抽出し、人員不足を補いながら研究成果の社会実装・収益化を支援。



商社・グローバル企業

海外の膨大な技術レポートを横断解析し、新たな共同研究テーマや発明テーマを自律的に発掘。

グローバル市場の裏付け：急拡大する知財AI・ナレッジマネジメント市場

単位：10億米ドル (Billion USD)

市場規模の爆発的成長

2025年の**229億ドル**から2035年には**819億ドル**へ（成長率257.9%、CAGR 13.6%）。

IP管理市場のAI浸透

2030年に**248.2億ドル規模**へ。特化型AIは新規性検索のヒット率「**76%**」を達成し、調査時間を「**最大75%削減**」する圧倒的ROIを実証。

独自ポジショニング

巨大グローバルプレイヤーの中で、Tokkyo.Aiは「**人材育成・判断プロセスの資産化**」という独自の組織マネジメント直結型アプローチで差別化。



国家戦略との完全な軌道一致：「知的財産推進計画2025」の実装インフラ

国家目標（マクロ）

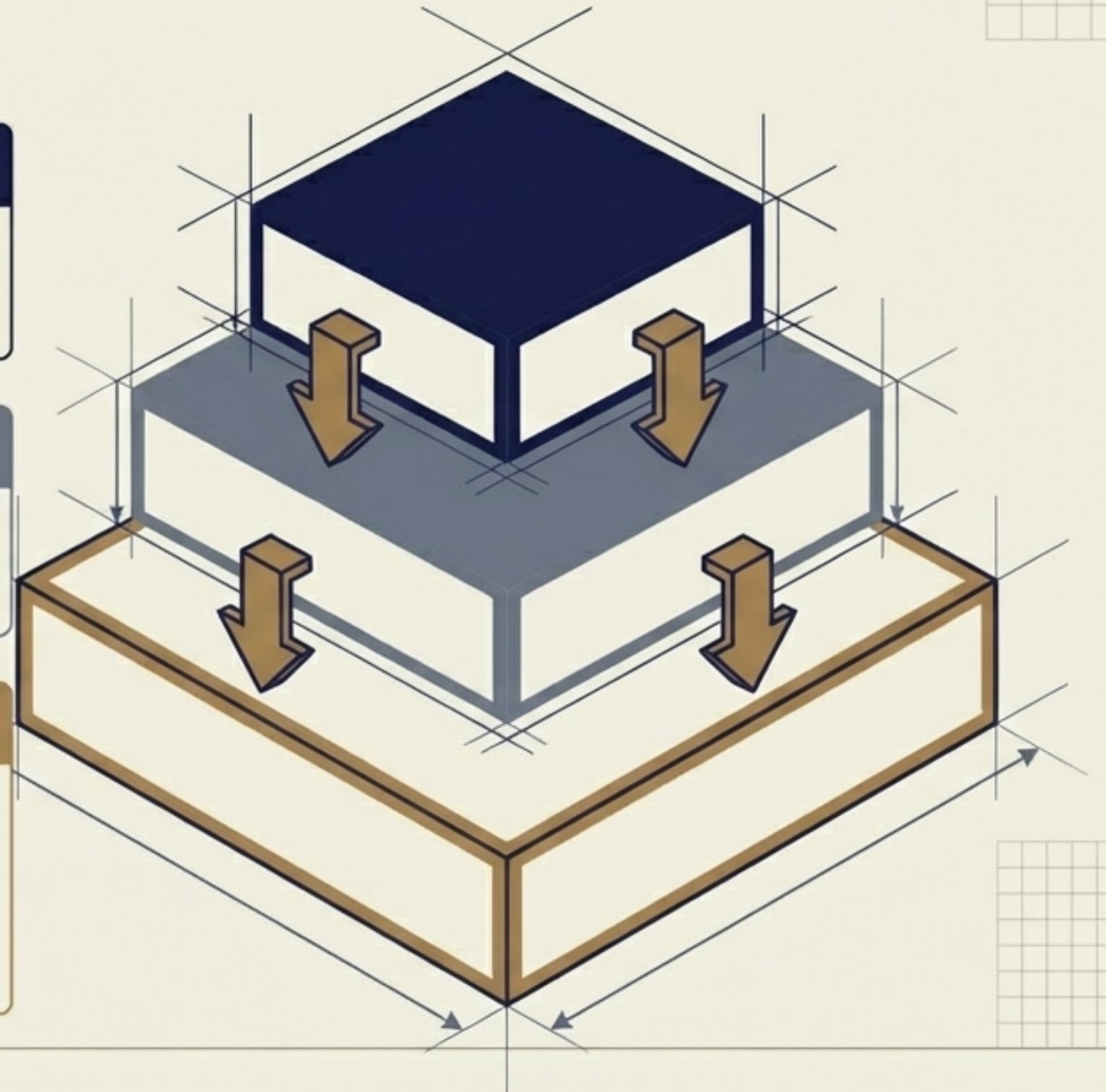
日本市場の無形資産比率50%超、WIPOグローバルイノベーション指数トップ4入りを目指す高付加価値型経済への転換。

政策要請（ガバナンス）

AI利活用率100%を目指しつつ、学習データの透明性確保と著作権・AI利用発明の明確化（説明責任）を両立。

企業レベルの実装（ミクロ）

リーガルテック社の「仮想知財部」AIと「思考プロセスの説明可能化（XAI）」機能が、コンプライアンスを維持しながら政策目標を企業現場で具現化する強力なエンジンとなる。



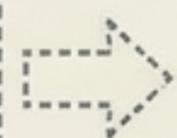
知財部門の再定義：「守りの知財（コストセンター）」から「攻めの知財」へ

	[従来] 守りの知財	[次世代] 攻めの知財
KPI / 目的	出願ノルマ達成・年金管理・他社特許回避	M&A戦略立案・ライセンス収益化・用途探索
役割の性質	手続と権利管理のスペシャリスト（防御的）	経営陣と一体化したIPストラテジスト（価値創造）
人材の評価指標	業務経験年数（属人的な暗黙知）	AI基盤を活用した客観的な一次判断精度
組織デザイン	固定化された専門職のみの閉じた組織	若手や他部門兼務者も活躍する柔軟で機動的な配置

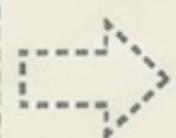
外部専門家との協働の高度化：代書から戦略コンサルティングへ

従来のプロセス（代書屋モデル）

企業から「断片的な
発明提案書」を提出



弁理士が長時間の
ヒアリングで特許性を抽出



明細書の作成（作業中心）

AI協働プロセス（戦略パートナーモデル）

企業がTokkyo.Aiで
「技術評価・優位性の論理的根拠」を
構造化データとして事前共有



弁理士は「広くて強い権利範囲の構築」や
「グローバル権利化戦略」という真の
真高付加価値コンサルティングにリソースを集中

Result: 出願の質向上と権利取得確率の大幅な引き上げを実現。

結論：知的資本競争を勝ち抜く必須要件（Hygiene Factor）

3. 次世代マネジメントの構築

AIの計算能力と人間の創造的戦略眼が高度に融合する体制の構築こそが、グローバル競争を勝ち抜く絶対条件である。

2. イノベーション格差の拡大

暗黙知を個人の頭脳に留める企業と、システム上に「構造化された知的資産」として再利用する企業との間には、数年間で埋めがたいギャップが生じる。

1. チェンジマネジメントの断行

AI導入の目的はベテランの「代替（リプレイス）」ではなく、ルーチンからの解放と「より創造的な経営提言」へのシフト（Augmentation）であることを宣言する。